

Flying Wheelchair Supporters の活動報告 空飛ぶ車いすプロジェクト in タイ国

新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科・須田裕紀, 前田雄
新潟医療福祉大学 空飛ぶ車いすサークル(FWS)・
上口春菜, 高橋幸, 斎藤皓太, 岩崎理沙子,
岡田行正, 佐々木美樹, 横山智志

【背景】

「空飛ぶ車いすプロジェクト」とは、1999年に公益財団法人 日本社会福祉弘済会が発足した支援事業である。日本では、年間3万台以上の車いすが廃棄されており、それらを修理し、アジア諸国で車いすを必要とする人々に届けている。現在では、1万人以上のボランティアの方々が参加し、アジアを中心に27カ国へ累計約5,000台の車いすを届けてきた。

車いすの修理は、全国約35校の工業高校を中心に、ボランティア団体、大学など、40以上の団体が参加をしている。

本学の「空飛ぶ車いすサークル FWS: Flying Wheelchair Supporters」は当学科開設の2007年より当時の大鍋教授が中心となり発足した。車いすの収集、修理、輸送の活動を通して、本プロジェクトに参加している。これまでに約80台を修理し、アジア諸国へ輸送した。また、昨年は、スリランカ、タイ国へ車いすと共に現地に赴き、車いす利用者への寄贈や、現地ボランティアの方々に使用方法や修理法を伝達している。

今年は、8月28日から9月2日にかけて、タイ国へ車いすを送り、利用者への寄贈と現地での修理会を行った。今回の活動を通して、空飛ぶ車いすプロジェクトに参加する団体として、唯一、医療福祉に関する知識をもつ本学のサークルが担う具体的な役割と、今後の活動における課題と方向性を確認することができたので報告する。

【方法】

今回の参加者・団体は、日本社会福祉弘済会(3名)、浮羽工業高校(12名)、神奈川工科大学(8名)、新潟医療福祉大学(8名)、日本人ボランティア(6名)、韓国福祉財団(2名)、台湾学生ボランティア(5名)、タイ人ボランティア(3名)の総勢47名であった(図1)。事前に、全国の高校生やボランティアが修理した車いす120台をコンテナで輸送し、渡航時に27台を持参し、計147台をタイ国へ届けた。輸送中の衝撃による破損が生じたため、現地で105台の修理、調整を行った。



図1. プロジェクト参加メンバー

【結果】

活動内容を下記に示す。

- 1日目: サハタイ財団にて修理, 障害児へ車いすの適合・寄贈
- 2日目: サハタイ財団にて車いす修理,
- 3日目: チャイナー県立病院にて車いすの適合・寄贈
- 4日目: 観光

各施設への車いすの寄贈数は、サハタイ財団へ寄贈(40台)、施設の障害児への適合・寄贈(10台)、チャイナー県病院への寄贈(87台)であった。



図2. サハタイ財団での修理の様子



図3. チャイナー県病院にて車いすを適合・寄贈

【考察】

今回の活動を通して、タイ国では車いすの需要が高いことや、十分に整備され、利用者の身体に適合した車いすが少ないことなど、本プロジェクトの役割を把握することができた。特に、本サークルに期待されていることは、車いすの修理技術のみならず、車いす・シーティングの適合技術も強く求められていると感じた。日本では、利用者の身体状況を考慮して車いすを製作する。しかしタイ国では、寄贈や再利用の車いすなど、限りある中から選ばざるを得ない状況である。

このようなことから、本サークルは車いすの修理と寄贈のみならず適合技術の支援も行っていく必要がある。

【結論】

空飛ぶ車いすプロジェクトにおけるFWSサークルの役割は、本学の特色である医療福祉の技術を活かした支援であり、車いす・シーティングの適合技術に関する技術を通して、ボランティア活動を推進し、プロジェクトの発展に貢献したい。